

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	桃園公園・城山地区スポーツ施設
	所 在 地	北九州市八幡東区桃園三丁目1番6号他
指定管理者 （自己評価者）	名 称	スピナ・シンコースポーツ共同事業体
	所 在 地	北九州市八幡東区平野二丁目11番1号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
体験イベント実施事業（未経験者）	☑	○	
講師を招いたトレーニング事業	☑	○	
健康増進運動プログラム事業	☑	○	
健康食育メニュー講座事業	☑	×	次年度以降実施予定
子ども向けイベント開催事業	☑	○	
学校連携支援事業（授業・部活動）	☑	○	
地域交流イベント事業	☑	○	
独自アンケート実施事業	☑	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
スポーツ教室事業（テニス・トライアスロン）	☑	○	
水泳教室事業	☑	○	
体操教室事業（ヨガ・ピラティス等）	☑	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。		4
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。		
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。		
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		
[評価の理由、要因・原因分析]		
①計画に基づく適切な管理運営および設置目的の達成 本施設の設置目的である「スポーツの普及・振興」および「憩いの場の提供」に基づき、「地域と共にウェルビーイングなスポーツ交流拠点の実現」を基本コンセプトとして運営を行い、また、令和7年度からは市による公園とスポーツ施設の一体管理方針のもと、スポーツ施設利用者にとどまらず、市民に広く開かれた施設運営を推進した。スポーツ施設と公園の特性を活かし、競技利用に加え、健康づくりや地域交流イベントを展開することで、多様なニーズに対応した参加型・交流型の運営を実施した。また、スポーツ施設を利用する学生が桃園公園の清掃ボランティアに参加するなど、施設利用を通じた地域貢献の輪が広がり、地域一体となった運営の実現につながった。公園施設については、スポーツ施設との一体的な利活用を推進しつつ、それぞれの設置目的および機能に応じた維持管理を実施した。具体的には、定期巡回により草木の繁茂状況や安全性を把握し、利用状況や季節要因を踏まえた優先順位に基づき、適切な時期に除草・剪定を行うなど、効率的かつ機動的な管理を実施した。あわせて、利用動線や視認性に配慮した維持管理により、安全性の確保と景観の維持向上を図った。 これらの取組みにより、来園者が安全かつ快適に利用できる環境を確保し、施設全体の利用価値を向上させた。その結果、年間利用者数は 301,211 人となり、要求水準（280,000 人）および計画値を上回り、設置目的に沿った成果を達成した。		
②利用者増加および利便性向上の取組みと効果 利用機会の拡大および利便性向上を目的として、令和7年度より SNS(公式 Instagram・LINE) の運用を開始し、施設利用に関する情報の可視化と発信強化に取り組んだ（公式 Instagram フォロワー539 名、LINE 登録者 301 名）。その結果、公式 Instagram において、子ども向けイベントのチラシ投稿が閲覧数上位 1 位・2 位を占め、合計約 21,000 回の閲覧を獲得するなど、高い訴求効果を確認した。さらに、夏休み期間に実施した学生応援企画（勉強スペース開放）の投稿においても約 7,300 回の閲覧を記録し、新		

規利用者の獲得および施設認知度の向上につなげた。

また、桃園プールでは公式 Instagram のストーリー機能を活用し、休館日を除き毎日、専用レーンの空き状況等をリアルタイムで発信した。これにより、来館前の情報把握を可能とし、利用のしやすさ向上および来場促進につなげるとともに、問い合わせ対応の削減、また利用機会のロスや不安軽減にも寄与した。

5 月に実施した「スポーツであそぼ☆ももぞの公園大作戦！」においては、有料プログラムを含みつつも、チラシに付属する「ミッションおためしクーポン」および公式 LINE クーポンを活用することで無料で体験できる仕組みを設け、経済的な負担に関わらず誰もが参加できる環境を整備した。

さらに、利用環境の向上として、武道場に自動掃除機の導入による清掃品質の均一化と業務効率化、自動販売機の設置など、利用者ニーズに即した設備改善を実施した。加えて、テニスコート周辺では、樹木の成長に伴い、高木枝のコート上部への侵入や下枝の園路への張り出しが見られ、利用環境への影響が生じていた。このため、下枝の撤去および支障枝の剪定を実施した結果、大会時の休憩スペースやフェンス越しの応援スペースの確保が可能となり、利用環境の改善と利便性向上につながった。これらの取組みにより、リピーターの増加および継続利用の促進につながった。

③ 施設間の連携による効果

スポーツ施設と公園の一体管理の特性を活かし、施設間の有機的な連携を図ることで、地域のにぎわい創出を推進した。具体的には、地域イベントへの参画（年間 2 回）や清掃ボランティア活動（累計約 150 名）を通じて、公園利用者とスポーツ施設利用者の交流機会を創出し、施設全体としての回遊性および利用価値の向上を実現した。

さらに、桃園プール利用者への館内掲示を通じてボランティア活動の周知を行った結果、学生団体が自主的に関心を持ち、落ち葉拾い活動に参加するなど、施設利用を起点とした地域活動への波及が生まれた。

このように、施設利用者を地域活動の担い手へとつなげる好循環を創出したことにより、「地域に根ざした交流拠点」としての機能を一層強化した。

④ 営業・広報活動の実施および効果

営業・広報においては、SNS（Instagram・LINE）を中心とした継続的かつターゲットを意識した戦略的な情報発信により、施設の認知向上および来場促進を図った。

イベント広報では、5 月開催の「スポーツであそぼ☆ももぞの公園大作戦！」において、事前告知に加え、当日の悪天候に伴うプログラム変更を Instagram で状況に応じて随時発信した。さらに、八幡東区役所のアカウントによるメンション拡散の協力もあり、情報の到達範囲が広がった。その結果、雨天時にもかかわらず「雨でも開催している」という情報を添えることで、安心感を醸成することで来場を促進し、初開催ながら 500 名以上の来場者を確保した。

また、Instagram を活用した飛込み教室の参加者募集では、SNS 経由での申込みが多数を占め、特に子ども層の集客において高い効果を発揮した。下関や赤間など遠方からの参加も見られ、定員満員での開催となるなど、広域からの集客にも寄与した。

加えて、8 月の大雨災害により駐車場出入口が水没し臨時休館とした際には、SNS の即時性を活かし、Instagram のストーリー機能により迅速かつ広範な情報発信を実施した結果、臨時休館に伴う苦情はゼロであった。

これらの取組みにより、SNS を活用した広報は、平時の集客のみならず、災害時における迅速な情報伝達および利用者理解の醸成にも有効に機能し、営業・広報活動として高い実効性を発揮した。

【スポーツ施設】

【利用者数】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	施設統合	280,000	280,000	280,000	280,000	280,000
目標値	のため、	280,000	280,300	280,500	280,800	281,000
実績	情報なし	301,211	—	—	—	—

【スポーツ施設・桃園公園】

SNS フォロワー数	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	500	1,000	1,100	1,200	1,300
実績	840	—	—	—	—
達成率	168%				

※ ・・・評価対象年度

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- | | |
|--|---|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 | 5 |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 | |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 | |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 | |
| ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 | |

【評価の理由、要因・原因分析】

① 利用者満足度の達成状況

本施設においては、利用者満足度の向上を重要な指標と位置付け、施設環境の改善およびサービス品質の向上に継続的に取り組んだ。

その結果、スポーツ施設の利用者アンケートにおいては、施設利用満足度 95.7%、職員対応満足度 98.9%と、市の基準(80%)を大きく上回る極めて高い評価を得ており、高水準の満足度を安定的に確保している。

桃園公園の利用者アンケートについては、整備状況満足度 87%、樹木状況満足度 85%と目標値を上回っており、不満足の原因として駐車場の有料化や樹木の樹種等に関する意見があった。

② 利用者意見の把握および反映

テニスコート周辺においては、「樹木の枝が伸びすぎて鬱蒼としている」との利用者意見が寄せられていたことから、支障となる樹木の剪定を実施し、景観の改善および利用環境の向上を図った。

また、利用者意見の把握においては、北九州市実施の紙アンケートに加え、当団体独

自にオンライン回答システムを構築し、若年層を含む幅広い層からの意見収集を実現した。

収集した意見については速やかに分析・検証を行い、要望が多かった武道場への自動販売機の導入を決定するなど、具体的な改善施策として反映した。

これにより、利用者ニーズに即した施設運営の推進および利便性の向上につながった。

③ 苦情対応の適切性

日常管理として、落ち葉清掃や通行支障となる枝の剪定、電線に支障を及ぼす恐れのある樹木の剪定を計画的に実施し、安全で快適な園内環境の維持に努めた。

特に、苦情内容として多く見られた「落ち葉による滑り」「枝の張り出し」「電線支障」については、優先的に対応し、迅速な改善につなげた。

また、繁忙期（夏休み等）においては、通常時よりプールスタッフを増員配置し、安全管理体制を強化するとともに、混雑やトラブルの未然防止を図った。

さらに、公園利用に関する苦情等を確実に把握するため、桃園プール内に常設のアンケートブースを設置し、利用者の声を随時収集できる体制を整備した。

これらの取組みにより、苦情の未然防止から迅速な把握・対応までを一体的に実施し、利用者の安心感の向上と適切な苦情対応体制の確保を実現した。

④ 利用者への情報提供

情報提供の強化として、SNS によるリアルタイム発信に加え、外部媒体との連携を積極的に推進した。具体的には、イベント情報について独自ルートにより報道機関へ情報提供を行い、Yahoo!ニュースへの掲載を2回実現するなど、広域的な情報発信を行った。また、令和7年5月の「こどもまんなか月間」において「スポーツであそぼ☆ももぞの公園大作戦！」を実施した。

本イベントは、市内小学校を通じて約50,000枚のチラシを配布し、児童および保護者層への広範的な認知拡大につながった。

これらの取組みにより、施設の認知向上および来場動機の創出を実現した。

⑤ サービス品質の維持・向上の取組みと効果

サービス品質の向上に向け、清掃品質の向上、設備改善、運営体制の見直しを一体的に推進した。具体的には、武道場に自動掃除機を導入し、清掃の高品質化および品質の均一化を実現するとともに、業務効率化により創出した時間を利用者対応へ充てることで、接遇サービスの質向上につながった。

また、公園清掃ボランティア活動を実施し、累計約150名が参加し、記念品付与や証明書発行により継続参加を促進し、施設への愛着醸成および地域コミュニティの活性化を図った。

これらの取組みにより、利用者意見の把握から改善、情報発信までの一連のPDCAサイクルを確立し、サービスの質的向上と利用者満足度の向上を継続的に実現した。

【スポーツ施設】

施設利用満足度	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	施設統合 のため 情報なし	80%	80%	80%	80%	80%
目標値		94%	94.5%	95%	95%	95%
実績		95.7%	—	—	—	—
有効回答数		554人				

職員対応満足度	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	施設統合 のため 情報なし	80%	80%	80%	80%	80%
目標値		95%	95.5%	95.5%	95.5%	95.5%
実績		98.9%	—	—	—	—
有効回答数		548人				

【桃園公園】

整備状況満足度	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	80%	80%	80%	80%	80%
実績	87%	—	—	—	—
有効回答数	137人				

樹木状況満足度	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	80%	80%	80%	80%	80%
実績	85%	—	—	—	—
有効回答数	138人				

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み	
(1) 経費の低減等	評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。 ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。 ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。	4
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 経費低減に向けた取組みと効果 公園管理においては、落ち葉清掃について落葉が完了したタイミングで集中的に作業を実施する運用とするなど、二度手間を避けた効率的な維持管理を行い、作業コストの抑制に努めた。本施設においては、限られた指定管理料の中で最大限の効果を発揮することを目的とし、民間ノウハウを活用した効率的な施設運営を推進した。 設備修繕においては、全面更新ではなく部分更新を基本とし、コースロープについてはワイヤーのみ交換し既存フロートを再利用することで、機能維持とコスト削減を両立した。	

その結果、当初 1,240 千円で計上していた修繕費を 692 千円まで圧縮し、計画比で大幅なコスト削減を実現した。また、球場整備においては、令和 7 年 1 月に桃園球場の転圧機(大型自走ローラー)が故障し、同等性能機の更新には約 200 万円の費用が見込まれる状況であった。このため、利用実態を現場スタッフとともにゼロベースで検証した結果、日常整備においては大型機は過剰性能であり、安全性や作業効率の面でも課題があることを確認した。これを踏まえ、用途を切り分け、日常整備用として操作性・安全性に優れた約 20 万円のプレートコンパクターを導入した。導入にあたっては、重機レンタル会社からのリースによる現地検証を実施し、性能および運用面に問題がないことを確認したうえで決定した。その結果、転圧機の購入コストは約 90%削減するとともに、作業の安全性および効率性の向上を両立した。

なお、球場全体の砂補充など広範囲の作業については必要時のみ外注対応とすることで、費用対効果の高い運用体制を構築した。

さらに、長年設備投資が十分に行われていなかった状況を踏まえ、修繕の実施にあたっては必要性や内容が現在の利用実態に即しているかを都度精査し、過不足のない適切な投資判断を行った。

修繕費については当初予算を上回る結果となったが、経年劣化により潜在していた不具合が顕在化したことを踏まえ、スポーツ振興課と協議のうえ、安心・安全を最優先に優先順位を精査し、先送りすることなく計画的に対応した。これにより、施設の安全性および機能維持を確保するとともに将来的なリスク低減および突発的な修繕費の抑制につなげた。

② 再委託業務の適正化とコスト抑制

再委託業務においては、業務内容やリスクに応じた適切な委託範囲の見直しを行い、品質を確保しつつコスト抑制に努めた。

高木の剪定作業については、道路上での作業においては安全確保のため警備業務を再委託した一方、公園内での作業については立入禁止措置により対応し、状況に応じた合理的な運用とした。また、公園内の日常的な除草・清掃等については、シルバー人材センターを積極的に活用し、地域人材の活躍機会創出を図るとともに、現地状況に応じた柔軟かつきめ細やかな維持管理を実施した。

清掃業務については、日常清掃を内製化することで業務品質の均一化を図るとともに、外注費の削減を実現した。

警備業務については、通常時は各施設に機械警備を導入することで効率的かつ安定的な安全管理体制を確保し、人件費の抑制を図った。

一方で、5 月に実施した子ども向けイベントでは、施設全体を会場としたことにより駐車場横断の動線が発生したため、安全確保の観点から臨時で警備員を配置した。その結果、事故およびクレームの発生はなく、必要な水準を確保しつつ最小限のコストで安全管理を実現した。

また、設備の保守点検等については、桃園・城山施設間での一括発注や、共同事業体構成員のネットワークを活用した複数見積の取得および価格交渉を実施し、品質を維持しながら経費の抑制を図った。

これらの取組みにより、再委託業務の適正化とコスト削減を両立し、効率的かつ持続可能な運営体制の構築につなげた。

③ 経費の効果的・効率的な執行

経費執行においては、内製化および運用の工夫により、効率的かつ柔軟な対応を実施した。

具体的には、コースロープのワイヤー交換作業については、共同事業体構成員であるシンコースポーツ九州(株)が主体となり対応し、外注に依らない効率的な修繕を実施することでコスト削減を図った。

また、アーチェリー場の的置交換についても関係団体と連携し内製化を図ることで、コスト削減と地域連携の強化を同時に実現した。

さらに、桃園・城山施設間での一括発注によりスケールメリットを活用し、コスト削減を図るとともに、シンコースポーツ九州(株)が市外を含め多数の指定管理施設を管理している広域的な実績と業者ネットワークを活用し、複数見積の取得および価格交渉を行うことで、適正価格での業務実施を確保した。

加えて、備品の共用化(桃園・城山施設間)や、利用の少ない時間帯を活用した修繕作業の実施により、施設運営への影響を最小限に抑えつつ効率的な維持管理を図った。

さらに、アーチェリー場の的置については、紫外線や風雨による劣化を抑制するため遮光対策を講じることで、耐用年数の延伸を図り、将来的な修繕費削減にもつなげた。

また、自主事業収益を活用した設備投資(更衣室の水着専用高性能脱水機導入)を実施し、収益とサービス向上を両立する持続可能な運営を実現した。

(単位：千円)

【スポーツ施設】

【支 出】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
光熱水費	計画	施設統合 のため 情報なし	123,037	123,037	123,037	123,037	123,037
	実績		109,298	—	—	—	—
修繕費	計画		8,723	8,723	8,723	8,723	8,723
	実績		22,769	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	施設統合 のため 情報なし	163,730	163,730	163,730	163,730	163,730
	実績		162,293	—	—	—	—
計	計画		295,490	295,490	295,490	295,490	295,490
	実績		294,360	—	—	—	—

【桃園公園】

【支 出】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
除草清掃	計画	情報なし	13,928	13,928	13,928	13,928	13,928
	実績		15,321	—	—	—	—
駐車場 管理	計画		6,818	6,818	6,818	6,818	6,818
	実績		5,703	—	—	—	—
その他管	計画	情報なし	7,954	7,954	7,954	7,954	7,954

理運営費	実績		7,408	—	—	—	—
計	計画		28,700	28,700	28,700	28,700	28,700
	実績		28,432	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※人件費はその他管理運営費に含む

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

①使用料金収入の増加に向けた取組みと効果

本施設においては、利用促進による収入増加を目的として、情報発信の強化および市内小学生向けチラシ配布を実施し、イベントを通じた施設認知の向上を図った。その結果、主要施設において利用者数および使用料金収入の増加を実現した。

これらの増加は、イベントによる新規来場機会の創出や、施設環境の改善、運営面での利便性向上といった複合的な取組みの効果によるものである。

これらの結果から、広報施策と運営改善を一体的に推進したことが、新規利用者の獲得および既存利用者の利用促進につながり、使用料金収入の増加に寄与した。

【主要施設の実績推移】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)
桃園プール	利用者数（人）	130,468	138,315（約106%）
	使用料収入 （千円）	24,384	25,195（約103%）
桃園庭球場	利用者数（人）	43,189	50,642（約117%）
	使用料収入 （千円）	8,505	9,485（約112%）

※ ・・・評価対象年度

② 自主事業および外部収入の確保

自主事業においては、教室事業の内容および料金の適正化を図り、需要に応じた価格設定へ見直しを行うことで収益性の向上を図った。

また、熱中症対策を兼ねたかき氷販売などの付加サービスを展開し、利用者満足度の向上とあわせて自主事業収入の確保に努めた。

さらに、SNS フォロワー割を導入することで、短期的な売上にとどまらず、フォロワー獲得および継続的な関係性構築を目的とした施策を展開し、中長期的な利用促進につなげた。加えて、年末にはチャリティーイベント「煩惱スイム」を実施し、スイマーが泳いだ距離に応じて寄付を行う仕組みとすることで、参加者が主体的に社会貢献に関わる機会を創出した。収益の一部を寄付する取組みとあわせ、社会貢献と施設利用の促進を両立した。

また、外部との連携による収入機会の創出として、昨年10月に実施された「クロサキスイチ」の「昭和盆踊り」への協賛を行うとともに、イベント会場において施設チラシの配布をするなどし、地域への認知向上および来場機会の創出を図った。

これらの取組みにより、来場者増加による間接的な収入機会の拡大につなげた。

③ 収益の還元およびサービス向上への投資

得られた収益については、施設サービスの向上に資する形で一部を還元する運営を行った。具体的には、自主事業収益を活用し、更衣室に水着専用脱水機を導入することで、利用環境の改善および利便性の向上を図った。

これにより、収入の増加とサービス向上を連動させた好循環を構築し、利用者満足度の向上および施設の魅力向上を同時に実現した。

【スポーツ施設】

(単位：千円)

【収 入】		6年度(更新前)	7年度(1年目)	8年度(2年目)	9年度(3年目)	10年度(4年目)	11年度(5年目)
指定管理料収入	計画	施設統合のため 情報なし	295,490	298,120	298,120	298,120	298,120
	実績		295,797	—	—	—	—
自主事業収益還元	計画		0	0	0	0	0
	実績		0	—	—	—	—
計	計画		295,490	298,120	298,120	298,120	298,120
	実績		295,797	—	—	—	—

※ …評価対象年度

【使用料収入】	6年度(更新前)	7年度(1年目)	8年度(2年目)	9年度(3年目)	10年度(4年目)	11年度(5年目)
使用料実績	施設統合のため 情報なし	46,235	—	—	—	—

※ …評価対象年度

【桃園公園】

(単位：千円)

【収 入】		6年度(更新前)	7年度(1年目)	8年度(2年目)	9年度(3年目)	10年度(4年目)	11年度(5年目)
指定管理料収入	計画	情報なし	28,609	28,609	28,609	28,609	28,609
	実績		28,609	—	—	—	—
自主事業収益還元	計画		91	91	91	91	91
	実績		91	—	—	—	—
計	計画		28,700	28,700	28,700	28,700	28,700
	実績		28,700	—	—	—	—

※ …評価対象年度

【使用料収入】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
使用料実績	情報なし	28,201	—	—	—	—

※ …評価対象年度

<指定管理業務への収益還元状況>

(単位：千円)

【スポーツ施設】

【実績】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
利益額	施設統合	0	—	—	—	—
還元額	のため	0	—	—	—	—
還元率	情報なし	0%	—	—	—	—

※ …評価対象年度

【桃園公園】

【実績】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
利益額	情報なし	269	—	—	—	—
還元額		91	—	—	—	—
還元率		30.7%	—	—	—	—

※ …評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- | | |
|--|---|
| ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。 | 5 |
| ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。 | |
| ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。 | |

評価レベル
(0～5)

【評価の理由、要因・原因分析】

① 人員配置の合理性

本施設においては、公の施設として求められる安全性および公平性を確保するため、業務内容や利用状況に応じた適正な人員配置を実施した。特に、夏休み等の繁忙期においてはプール監視体制を強化するため臨時スタッフを配置するなど、利用状況に応じた柔軟な人員運用を行った。

これにより、安全管理体制の強化および混雑・トラブルの未然防止を図り、安定した施設運営を実現した。

② 職員の資質・能力向上の取組み

職員の資質向上に向けては、防災・防犯および利用者対応の両面から計画的な取組みを実施した。具体的には、消防訓練の実施に加え、新たに不審者対応訓練を導入し、緊急時における対応力の強化を図った。

また、接遇およびコンプライアンス（カスタマーハラスメント対応を含む）に関する意識向上にも取り組み、利用者対応の質の向上を図った。

これらの取り組みにより、安全性の確保とサービス品質の向上を両立した人材育成を推進した。

③ 地域・関係団体との連携および協働

地域および関係団体からの要望に対しては、迅速かつ柔軟に対応し、地域活動の円滑な実施を支援した。具体的には、陣山市民センター主催のサマーフェスティバルにおいて、駐車場として利用予定であった陣山雨水調整池上の事前除草を実施したほか、陣山まちづくり協議会が管理する公園西側のアジサイ植栽地について、開花時期直前に除草を行い、景観向上に寄与した。さらに、前田祇園山笠における山車通行の安全確保のため、区会長からの依頼に基づき桃園公園東側入口車道横のクスノキの支障枝剪定を実施した。

また、桃園公園スポーツ施設が所在する八幡東区に拠点を置く九州国際大学（三輪ゼミ）や JICA 九州との協働、「クロサキスイッチ」への協賛などを通じて、地域と連携した施設運営を推進した。

5 月に実施した「スポーツであそぼ☆ももぞの公園大作戦！」については、新規事業であることから、八幡東区の自治区会会合等に参加し、事前に趣旨説明を行うことで地域住民の理解促進を図り、円滑なイベント運営につなげた。

また、同イベントでは、武道場の来場機会創出を目的として、弓道運営委員会と連携し、弓道場を活用したシューティングゲームを実施することで、子どもたちが武道施設に親しむ機会を創出し、スポーツ参加の裾野拡大につなげた。さらに、JICA 九州との連携により、SDGs デザインの椅子を活用した展示や、同団体が取り組む SDGs からの大会を武道場で実施し、子どもおよび保護者が楽しみながら来場・滞在できる機会を創出することで、武道場の利用促進および国際理解の促進、持続可能な社会への関心喚起を図った。

加えて、アーチェリー協会や弓道運営委員会と協働し、施設維持管理やイベント運営に専門的知見を取り入れることで、施設機能の向上と地域との関係強化を実現した。

一方、11 月に実施した公園美化イベントにおいては、九州国際大学の協力を得て、北九州市が実施する桃園公園に関するアンケート調査を行った。学生による積極的な声掛けと丁寧なヒアリングにより、多数の協力的な回答を得ることができ、行政施策への市民意見の収集にも寄与した。

これらの取り組みにより、各イベントには約 50 名から最大 500 名規模の参加があり、地域交流の活性化および施設の交流拠点としての機能強化につながった。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	5
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。	
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。	

④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。	
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。	
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	
【評価の理由、要因・原因分析】	
① 個人情報保護対策	
個人情報保護については、代表企業の社内規定に則り、北九州市アンケート（紙）の適切な回収・管理を徹底するとともに、独自に構築したオンラインアンケートにおいても管理者権限を限定するなど、情報管理体制の強化を図った。 また、利用申請書等の個人情報を含む書類については、鍵のかかる場所での保管を徹底し、物理的な管理体制の強化を行った。 さらに、社内において情報セキュリティ研修を実施し、全従業員が参加することで、個人情報保護に対する意識および運用レベルの向上を図った。 これらの取組みにより、個人情報の適切な管理および漏えい防止を徹底した。	
② 平等利用の確保(機会の提供)	
平等利用の確保においては、誰もが参加可能なイベント設計を行うとともに、市内小学生へのチラシ配布、SNS、ホームページ等を活用した幅広い広報を実施し、特定の利用者層に偏らない周知を図った。 また、武道場については従来の武道利用に限定せず、フラダンスや体操など多様な用途での利用を促進するとともに、館内へのチラシ・ポスター掲示を行い、利用機会の周知を図った。 さらに、イベント時に武道場を開放することで、市民が実際に施設に触れる機会を創出し、「このような施設がある」という認知向上につなげるとともに、新たな利用のきっかけづくりを行った。	
③ 公平な運用の確保(運用ルール・対応)	
公平な運用の確保においては、受付対応の統一およびルールの徹底を図るとともに、職員に対してカスタマーハラスメントおよびコンプライアンスに関する研修を実施し、公正かつ適切な利用者対応力の向上を図った。 また、指定管理施設である城山体育施設に令和7年度より新たに加わったスタッフについても、毎年実施している代表企業所属の西鉄グループ全社共通研修へ参加させ、全施設において統一された対応品質の確保とコンプライアンス意識の醸成を図った。 さらに、夏休み等の繁忙期においては初めて施設を利用する来場者が増加することを踏まえ、通常時よりスタッフを増員し、施設の利用方法や更衣室までの動線について、口頭案内に加え実際に同行するなど、利用者目線に立った丁寧かつ公平な対応を実施した。 これにより、利用経験の有無に関わらず、誰もが安心して施設を利用できる環境を整備した。	
④ 収支の適正性	
施設の管理運営に係る収支については、関係法令および契約内容に基づき適正に処理	

しており、不適切な点は認められない。

また、経費執行および収入管理についても透明性を確保し、適正な運営を行った。

⑤ 日常の安全対策

日常の安全対策として、定期的な点検および清掃・施設管理を徹底し、施設の安全性確保に努めた。加えて、公園の基幹業務である除草・剪定については、利用状況や季節特性を踏まえ優先順位を設定し、計画的かつ効率的に実施した。

さらに、病害虫の発生状況に応じた適切な消毒を行うなど、安全で快適な公園環境の維持に努めた。

具体的には、庭球場の審判台点検により老朽化を早期発見し修繕を実施したほか、危険木の伐採については行政（八幡東区役所まちづくり整備課）と連携し、立会いのもと適切に対応した。

また、桃園公園駐車場のゲートバー接触事故発生時には、駐車場設備の維持管理を委託している企業と連携し、当該企業の事務所が現場近くに所在している利点を活かして迅速な現地対応を実施した。

これにより、利用者の安全確保および早期復旧を図るとともに、再発防止に努めた。

これらの取組みにより、日常管理から緊急対応まで一貫した安全管理体制を確保した。

⑥ 防犯・防災等の危機管理体制

公園管理においては、事故の未然防止を目的として、枯死樹木の事前確認を行い、必要に応じて北九州市へ進言のうえ対応を図った。

あわせて、公園内の高木における枯死枝の剪定を実施し、枝の落下による災害発生の予防措置を講じた。

また、八幡東区役所より、保健所の現地調査においてセアカゴケグモが確認された旨の連絡を受け、速やかに対応し、翌日には駆除作業を実施した。具体的には、代表企業が防疫事業を担っている強みを活かし、専門的知見に基づく指導のもと、確実な駆除と利用者への被害防止を図った。

さらに、危機管理体制の強化として、防災・防犯訓練を継続的に実施するとともに、新たに不審者対応訓練を導入し、有事の際の初動対応力の向上および職員の危機意識の醸成を図った。

加えて、大会開催時においては、1階ロビーからプール場内が視認できる施設構造に起因するプライバシー面の課題に対し、ガラス面への目隠し対応を実施した。これにより、不特定多数の来場者がある環境下においても、アスリートのプライバシーおよび人権に配慮した運営を可能とした。

これらの取組みにより、事故・トラブルの未然防止から発生時の迅速対応、有事対応までを一体的に強化し、安全性の確保とともに、利用者が安心して施設を利用できる環境整備を実現した。

⑦ 事故・災害時の対応

災害・事故対応においては、令和7年8月9日および10日の大雨によりテニスコート側溝に土砂が流入し駐車場排水機能の低下が確認されたことから、二次被害（敷地外への浸水等）を未然に防止するため、緊急対応が必要と判断した。

これを受け、8月26日から28日にかけて清掃工事を実施し、代表企業の社内ビルサ

ービス部へ発注することで特殊車両の迅速な手配を可能とし、短期間で機能回復を実現した。
その結果、重大事故や二次被害の発生を防止し、安全で安定した施設運営を継続することができた。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

本施設においては、設置目的である「スポーツの普及・振興」および「憩いの場の提供」に基づき、当団体の基本コンセプトである「地域と共にウェルビーイングなスポーツ交流拠点の実現」を軸に、スポーツ施設と公園の一体的な管理運営を推進した。

特に、公園一体管理の特性を活かし、イベント展開や SNS を活用した情報発信を強化することで、スポーツ利用者にとどまらない来場機会の創出を図った。

その結果、年間利用者数は 301,211 人となり、要求水準（280,000 人）を上回る実績を達成するとともに、利用者満足度においても施設利用 95.7%、職員対応 98.9%と高水準を維持し、利用促進とサービス品質の両立を実現した。また、SNS を活用した情報発信や地域イベントへの参画、ボランティア活動の推進により、施設の認知向上と地域との関係強化を図り、「地域に開かれた交流拠点」としての機能向上に寄与した。

さらに、設備更新や修繕においては民間ノウハウを活用し、共同事業体のネットワークを活かした複数見積りや価格交渉等により、コスト削減と機能維持の両立を図った。加えて、自主事業収益を活用した設備投資を行いサービス向上へ還元することで、「稼いで還元する」運営を実践するとともに、効率的かつ持続可能な施設運営を実現した。

安全管理および危機対応においても、構成企業であるシンコースポーツ九州の知見を活かし、繁忙期の人員強化や防災・防犯訓練の実施に加え、プール監視体制の強化を図った。具体的には、水深 1.8mでの運用に対応し監視員を増員するとともに、タワー監視（T）・巡回監視（P）・監視員室（C）を組み合わせた体制により、事故の未然防止と迅速な対応を実現した。

今後の取組みとしては、さらなる利用者増加およびサービス向上に加え、環境負荷低減とエネルギー効率の向上を目的として、コージェネレーションシステムの適正活用を推進する。具体的には、西部ガス株式会社およびヤンマーエネルギーシステム株式会社と連携し勉強会を実施するなど、施設特性に応じた最適な運用方法の検討を進める。

以上のとおり、本施設においては、設置目的の達成に加え、利用者満足度、効率性、安全性、地域連携の各側面において高水準の成果を達成しており、イベント・SNS・公園一体管理の相乗効果による来場者増加や、「稼いで還元する」運営の実践など、民間の創意工夫を活かした指定管理者として、適正かつ効果的な施設運営を実現した。

【評価レベル】

評価レベル	評価レベルの考え方	
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった



4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

施設概要（桃園公園・城山地区スポーツ施設一覧）

No	施設名	設置根拠条例	所在地 (北九州市)	設置目的
1	北九州市立桃園市民プール (愛称：グローバルマーケット アクアパーク桃園)	北九州市スポーツ施設条例	八幡東区桃園三丁目1番6号	スポーツの普及及び振興を図り、市民の心身の健全な発達及び明るく豊かな市民生活の形成に資する。
2	桃園球場	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例	八幡東区桃園四丁目1番	
3	桃園運動場	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例	八幡東区桃園四丁目2番	
4	桃園庭球場	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例	八幡東区桃園三丁目1番	
5	桃園武道場	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例	八幡東区桃園三丁目1番	
6	城山緑地アーチェリー場	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例	八幡西区屋敷二丁目4番	
7	北九州市立城山体育館	北九州市スポーツ施設条例	八幡西区屋敷二丁目14番1号	
8	北九州市立城山球場	北九州市スポーツ施設条例	八幡西区屋敷二丁目14番	
9	北九州市立城山庭球場	北九州市スポーツ施設条例	八幡西区屋敷二丁目14番	

施設概要（桃園公園施設一覧）

No	施設名	設置根拠条例	所在地 (北九州市)	設置目的
1	桃園公園	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例	八幡東区桃園三丁目1番 八幡東区桃園四丁目1番、2番	スポーツの普及及び振興を図り、憩いの場を提供することにより、市民の心身の健全な発達及び明るく豊かな市民生活の形成に資する。
2	桃園公園駐車施設	北九州市都市公園、霊園、駐車場等の設置及び管理に関する条例		